



# 都市医師会 だより

## 「美唄地域医療フォーラム2014」を終えて

美唄市医師会 理事 花田 太 郎

平成26年2月1日、美唄市の地域医療のあるべき姿を考える目的にて、美唄市の主催で、「美唄地域医療フォーラム2014」が美唄市内のホテルで開催され、市民ら約200人が来場されました。私もパネリストの一人として参加したため、ここに報告いたします。

美唄市長の挨拶の後、最初に市職員による美唄市地域医療再構築プランの説明があり、美唄市における保健・医療・福祉のネットワーク作り、疾病予防と健康づくり、総合的な保健福祉・医療設備の強化と機能強化に関してとその具体案の発表がありました。

その後、地域医療再建のモデルケースとして松前町立病院院長・木村眞司先生を講師に迎え、基調講演「より信頼され、愛される病院づくりを目指して」

が行われました。高齢化率の高い松前町で、いかに地域に根付いた医療を構築したか、同院の1週間の時間の流れ、医学生や研修医を引きつけるためのノウハウ、総合診療医の育成、同病院の医療財政までもユーモアたっぷりにプレゼンテーションしていただきました。フロアからは「総合診療医とは何か」「松前町立病院の訪問診療の方法は」など積極的な質問があり、モデルケースへの興味と期待が見受けられました。

その後、「美唄の地域医療を守り支えていこう」をテーマにパネルディスカッションが行われ、「公立芽室病院をみんなで支える会」会長の島本ヒサ子殿、市立美唄病院院長・永田康医師、美唄市長・高橋幹夫殿、そして私、花田病院・花田太郎がパネリストとして参加し、それぞれの立場からディスカッションいたしました。島本さんは住民として、いかに病院を支えていったかの活動報告、永田院長からは現在の美唄市内の救急体制の報告や今後の市立病院のあるべき姿のプレゼンテーション、私、花田は市内で唯一、訪問診療・訪問看護を行っている一般病院として現在の問題点などを発表いたしました。

フォーラムは市民の積極的な質問・発言で、予定時間を大幅に超過して終了し、その出席人数の多さからも、地域医療への関心の深さが感じられました。

美唄市は機関病院である市立美唄病院と北海道中央労災病院せき損センター（前、美唄労災病院）の医師減少、ならびにそれに伴う病院の規模縮小、また市民の高齢化率も徐々に高くなっており、地域医療が危機を迎えていると言っても過言ではありません。市民の地域医療に対する不安や疑問に答える形となった今回のフォーラムは、非常に実り多いものであったと思われまます。



松前町立病院院長 木村眞司先生



パネルディスカッション